

# 豊川圏域大規模氾濫減災総合サミット

## 議事概要

日時：令和元年5月9日（木）13：30～15：30

場所：東三河建設事務所 5階 大会議室

### ■ 議題

#### 1. 【気象概要】

- 1) 平成30年 気象概要 <名古屋地方気象台>
- 2) 平成30年9月末 台風24号 豊川出水概要<豊橋河川事務所>

#### 2. 【豊川水防災サミット<豊橋河川事務所>】

- 1) 豊川水防災サミット規約の改定（案）について
- 2) 「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく豊川の減災に係る取組方針の改定（案）について
- 3) 取組方針のフォローアップについて

#### 3. 【豊川及び豊川放水路洪水予報連絡会・豊川水防連絡会<豊橋河川事務所>】

- 1) 平成30年度 事業報告、令和元年度 事業計画（案）について
- 2) 規約及び役員名簿について
- 3) 重要水防箇所の変更箇所について

#### 4. 【豊川圏域水防災協議会<愛知県>】

- 1) 豊川圏域水防災協議会 規約の改正（案）について
- 2) 豊川圏域水防災協議会 取組方針の変更（案）について
- 3) 出水期前の体制確認について
- 4) 取組方針フォローアップについて
- 5) 今後のスケジュールについて

#### 5. 【各機関の取り組み報告】

#### 6. 【全体質疑】

## ■ 協議結果

### 【気象概要について】

平成 30 年度の気象概要及び台風 24 号出水概要について説明した。

### 【豊川水防災サミットについて】

豊川水防災サミット規約の改定（案）および豊川の減災に係る取組方針の改定（案）を確認し、了承を得た。

豊川の減災に係る取組方針のフォローアップについて説明した。

### 【豊川及び豊川放水路洪水予報連絡会・豊川水防連絡会について】

事業報告、今年度の事業計画案並びに規約と役員名簿の変更、あわせて、重要水防箇所の変更を説明し、了承を得た。

### 【豊川圏域水防災協議会について】

規約の改正及び取組方針の変更を確認し、了承を得た。

出水期前の体制確認と今後のスケジュールについて説明した。

### 【各機関の取り組み報告について】

豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市が取り組み状況を報告した。

#### <豊橋市>

2017 年 7 月に発足したドローン飛行隊は災害時において、ドローンを用いて氾濫時の災害状況を把握し、その情報を各機関に提供した。平常時は週一回の訓練を実施している。

#### <豊川市>

水防関係機関の連携や災害情報収集・伝達の訓練、住民及びボランティア参加型の訓練、救助訓練などを重点とし、水害時に関係団体との円滑な連携と迅速な対応を行うため、また市民の水防に対する関心を高める目的で総合水防訓練を実施した。参加人数は合計 307 名であり、有効な訓練となった。

#### <蒲郡市>

減災対策の推進にあたって、「伝えたいことをわかりやすく伝える」という方針のもと、災害時にも持ち運びやすいように A1 サイズの両面で風水害ハザードマップを作成した。また自らの命は自らで守るという意識を持ってもらうため、住民への説明会の開催などを実施した。

<田原市>

出水期前の対応として、排水機場での操作訓練の実施を行うとともに、防災リーダー研修会や防災カレッジ、自主防災会を開催した。

**【全体質疑】**

本会の内容を受けて、市長からご意見を頂いた。以下にその概要を記載する。

<田原市>

- ① 豊川の恩恵を受ける豊川圏域内の市町村が国・県と一体となって防災に取り組むことは非常に大切なことである。
- ② 災害に強いまちづくりを目指しており、今後も国・県・市町村が一体となって減災に取り組んでいきたい。

<新城市>

- ① 昨年は4月に大雨、8月に台風20号、9月に台風24号が発生し、豊川水位の上昇により樋門操作が例年より多かった。特に9月の台風では夜中に停電している状態で危険と隣り合わせの状況であった。昨年も依頼したが、新城市では豊川の樋門である杉川、殿田川の2つを地元市民が操作しているので、操作における安全確保をさらに強化できるような対応を引続きお願いしたい。
- ② 今年度「洪水ハザードマップ」作成する。作成においては技術指導などの協力をお願いしたい。
- ③ 昨年度、県管理河川の宇連川で危機管理型水位計を設置していただき感謝する。今後、水位計を有効に活用できるように、ご指導いただきたい。

<豊川市>

- ① 国土交通省による平成29年度、平成30年度に老朽化した豊川放水路の分流堰の修繕工事や、ソフト対策としての簡易水位計や浸水周知のための回転灯の設置・運用などの取り組みの充実に感謝する。県による白川、音羽川の河川改修、御津川の上流部での砂防工事などの着実な進行にも感謝する。
- ② 昨年度の台風24号による大雨により、豊川では避難判断水位に達し、霞堤地区の金沢、三上地区が冠水するなど、近年の異常気象で地域住民は不安を抱え、周辺の企業活動にも影響を及ぼしている。その不安を少しでも解消するためには、霞堤地区の開口部において、早期に小堤を設置することが必要と考える。昨年度に、設置に向けた設計及び用地調査等を進めているが、災害時における対応の強化、減災に係る取り組みを行っていただきたい。

- ③ 今年は昭和 44 年 8 月に発生した江島地区における豊川の破堤から 50 年の節目の年となる。当時の記録集を作成し、関係者へ配布するとともに、イベントなどを開催し、甚大な被害をもたらした災害を風化させないようにしていただきたい。本市では、昨年度はソフト対策として金沢、三上地区に、昭和 44 年 8 月の洪水が再来した場合の想定浸水深を示す浸水案内看板を設置した。さらに洪水ハザードマップの増刷、出前講座などを実施した。本年度は、昨年度から建設を進めている防災センターが完成する予定である。その他にも情報伝達システムの見直しや、浸水位置の路面表示の設置など、防災強化の充実を図る。
- ④ 今後も、市内に流れる河川の減災に係るハード・ソフト対策の充実と推進を図るとともに、これからの出水期の対応にも共に協力・連携をお願いしたい。

#### <豊橋市>

- ① 水防訓練等に車両等を活用していただき、市民が間近に見て訓練できることは良い取り組みである。台風時の豊橋駐屯地や豊橋河川事務所からのリエゾン派遣には感謝する。ホットラインの伝達とあわせて、貴重な情報提供にも感謝する。
- ② 本市には 3 箇所霞堤地区が残っており、浸水被害が多発している中、ソフト対策でいかに対応していくことが大切である。昭和 44 年洪水の浸水看板を設置しているが、洪水ハザードマップでは、それよりも大きい想定最大規模の降雨を考え、豊川沿川全域が浸水すると想定し更なる充実を図る必要がある。また、設楽ダムの進捗と合わせて、小堤の設置を進めていただきたい。

柳生川は洪水が多発し、県による地下河川の設置に期待している。一方で中流が流れやすくなると、下流の浸水リスクが増加するため、その対応もお願いしたい。梅田川の河川整備計画も策定されたので、今後、よろしくお願いしたい。

- ③ 河川災害というと洪水災害を思い浮かべるが、洪水災害の他にかんがい被害も多いので、総合的な観点からの防災を考える必要がある。
- ④ 市には河川技術者がおらず、水害に備える等の根本的な技術力が不足している。強靱な国土作りを目指して国・県等の関係機関と連携して取り組みたい。
- ⑤ 河川の分野ではフェールセーフの考え方が必要であり、どこかが壊れても、全体のシステムは維持される考えを組み込む必要がある。

9 月の台風 24 号では、たった一つの樋門の閉め忘れによって大きな損害が発生した。万が一、何か起きたときにどうするのかを考えるべきである。

霞堤は下流を守り全体の被害を最小化する働きを有するが、浸水頻度を低減するために小堤を設置する。その小堤が壊れたときのための仕掛けも大切である。

色々なシステムを考える上で、システムが破綻しないことを念頭に置く必要がある。

以上